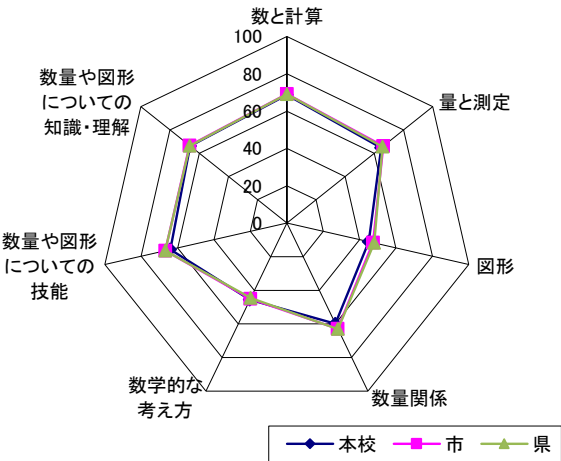


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.7	69.2	69.1
	量と測定	64.7	66.1	65.6
	図形	45.0	47.4	48.0
	数量関係	59.9	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	45.6	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	64.0	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	66.2	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本領域の平均正答率は68.7%で、県の正答率をわずかに0.4ポイント下回った。 ○「3位数以上の筆算(たし算・ひき算)」は85.3%で2.3ポイント上回っている。「時刻と時間」においても県の正答率58.8%を1.1ポイント上回っている。 ●「3位数×2位数は5位数」では6.7ポイント、「あまりのある除法の計算の答を確かめる」では5.1ポイント下回っている。	・新単元の導入時に系統性のある単元の復習の時間を確保することで、既習事項の定着を図り、それらを活用して課題に取り組ませる。 ・たしかめ算を確実に使えるように、取り組む機会を繰り返し確保する。 ・教科書に出ている表現以外の出題方法に対応させるため、式や計算の表す意味を言語化させる機会を多くすることで習熟を図る。
量と測定	●本領域の平均正答率は64.7%で、0.9ポイントとやや下回った。 ○「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題」の正答率は40.3%で、県の正答率を4.3ポイント上回った。	・全体での統一した指導を円滑に行うために、全グループにいきわたるよう教具の充実に努める。(2kg台はかりなど) ・どの情報を用いれば答えにたどり着くのに十分なのか、判断が付きづらい児童については、TTを活用して個別的に指導を行う。 ・算数の時間に限らず、直接経験を重視し、量感を養う。
図形	●本領域の平均正答率は45.0%で県の正答率を3.0ポイント下回った。 ○「箱に入った同じ大きさの6個のボールから半径を求める」では、県の正答率を7.6ポイント上回った。	・実際に形を分類したり作図したりという活動を積み重ねることで、図形の形やその特徴、定義の更なる定着を図る。 ・また、それに合わせて、野線、ドット、白紙等色々な作図用紙に対応できるような機会を確保する。
数量関係	●本領域の平均正答率は59.9%で、県の正答率を3.2ポイント下回った。 ○□を使った式では、未知の数を□として、数量関係を表した線分図を選んだり、等分除の問題について、除法の式を立式して答えを求めるたりする問題で、県の正答率を上回っていた。	・グラフの読み取りの技能の向上を図るために、児童の実態に合わせた習熟度別学習など、個に応じた学習の工夫や充実に努める。